

メッセージ 海と渚

Message Sea and Beach

発行者 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ペアービル7F
TEL 03-5800-0130 FAX 03-5800-0131
E-mail info@umitonagisa.or.jp URL http://www.umitonagisa.or.jp



ご挨拶

メッセージ第19号をお届けします。

米国内でアジア系住民への憎悪犯罪(ヘイトクライム)がニュースになっています。それで思い出すのは、今から30年も前になりますが、豪州沖のタスマン海で操業していたビンナガマグロ流し網漁業が禁止となった事件です。

当時、流し網漁法は「未来永劫、海洋生物を捕り続ける『死の壁』」と称され、「アジア系乗組員は、みな自ら悪事と知って、黒いカッパで顔を隠して作業している」と非難されました。ところが、同じ漁法にも関わらず、ビスケー湾の流し網操業は禁止されなかったのです。

西日本の海岸に漂着するごみにはプラスチック製漁具もありますが、漂着物にはハングルや簡体字が多く見られます。自然災害や事故で漁具が流失することはあっても日本の漁業者は法令遵守していると説明しても、ほんの一部の漁港周辺に漁具が放置されていれば、業界の反論も信用されません。

『<業界の信用を高める>どんな商売もそうでしょうが、自分の店が発展、繁栄していくには、そのお店の属している業界全体が常に健全で、世間の人びとから信用されていることが非常に大事だと思います。もしそうではなく、業界の中に不健全な店が多ければ、「あの業界はだめだ、信用できない」ということになって、その業界に属する個々の店も、同じような評価を世間から受け、商売は成り立っていきにくくなるでしょう。ですから、お互い商売を進めていく上で、自分の店の繁栄をはかることはもとより大事ですが、それと同時に、他の店ともうまく協調して、業界全体の共通の信用を高めることに配慮することが、きわめて大事だと思うのです。(松下幸之助一日一話)』との提起は心すべきことと思います。

SDGsやESGが求められる時代にあって、日本の水産界が、業界として漁網やフロートなどの漁業資材の管理・処理を徹底し、外国の漁業から参考にされるような「海の環境を守る」活動により、世界中で漁業、漁師への信用が高まることを切に願います。

小生本年6月に退任することとなりました。就任直後に「海洋プラスチック憲章」が採択され、世界的に海洋保全の機運が高まり、当機構の存在もアピールできる良い機会となりました。これまでの皆様のご協力に感謝申し上げます。会員のみなさまには当機構の活動にご賛同頂き、引き続きのご支援を賜りたくお願い申し上げます。(専務理事 糸 知文)

CONTENTS

表紙	1
1. 令和2年度運営委員会	2
2. 環境・生態系維持・保全活動等支援事業	3~7
歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る事業	
第15回・第16回 海藻シンポジウム報告書江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト	
3. 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告	8~11
海の羽根募金・なぎさの環境基金・あとがき	12

1. 令和2年度運営委員会

令和3年5月6日(木)(資料送付日)

令和2年度海と渚環境美化運営委員会については新型コロナウイルスの拡大防止から開催を見送り、各委員に資料を送付しました。

送付資料

資料1: 令和3年度事業計画

資料2: 令和2年度事業報告

資料3: なぎさ応募要領

資料4: 募金額推移

その他: メッセージ17号、18号

令和2年度に制作したポスター

令和2年度事業報告

(1) 海と渚の清掃活動普及啓発事業

ア 海と渚の清掃活動への呼びかけ及び支援事業

海浜利用が活発になる「海の日」に併せて海浜等の一斉清掃を呼びかけた。

第40回全国豊かな海づくり大会のイベントとして、7月23日宮城県石巻市において予定していた「全国一斉海浜清掃旗揚げ式」は新型コロナウイルスの影響で1年後に延期となった。

イ 海と渚の清掃活動の普及・啓発及び支援

海浜清掃に資機材を提供した。全国1,700ヶ所に自然物用ゴミ袋(大)24万枚・(小)1万枚、人工物用ゴミ袋(大)216万枚・(小)2万枚を配布した。

(2) 海洋・海岸環境保全整備活動促進事業

ア 環境・生態系維持・保全活動等調査事業(海の羽根基金事業)

・海浜等の清掃活動に関して都道府県を通じてアンケート調査を実施した。

・漁業者が参加した植樹活動の実態等についてアンケート調査を実施した。

イ 環境・生態系保全活動支援事業(なぎさの環境基金事業)

次世代の環境保全を担う人材の育成と沿岸域の環境保全を目指す団体などが実施するプロジェクトに助成した。助成先は「江ノ島フィッシャーマンズ・プロジェクト」、「琴引浜鳴き砂文化館」、「海・川・山環境保全研究会(SRME)」の3団体、

(3) 漁場漂流・漂着物対策促進事業

① 農山漁村6次産業化対策事業のうち漁業系海洋プラスチックごみ削減対策事業

・宮城県内では漁協を拠点に漁網リサイクル実証試験を実施し、使用済み刺網の網糸についてリサイクル網糸として利用できる条件について検証した。長崎県対馬では離島に適した漁業系廃棄物の処理システム構築のため、聞き取り調査を実施

するとともに現在の海洋ごみをめぐる情勢について説明した。

・平成30年にカキ筏に垂下した生分解性プラスチックで製作したカキパイプを、令和元年度の2回に続き、令和2年6月及び10月に実際のカキ収穫作業と同様の作業を実施して、耐久性を調査した。また柔軟性を増大する素材を混合して耐久性を向上させたカキパイプの開発に取り組んだ。

・その他、9月に全国漁業協同組合学校において、特別授業を実施し、漁業系廃棄物対策に関する動きや本事業の内容を発表した。また、11月のIPF国際プラスチックフェアのオープンセミナー(オンライン)で、「プラスチックごみの海洋への流出を防ぐために企業ができること」のパネラーとして本事業内容を紹介した。

② 農山漁村6次産業化対策事業のうちリサイクルしやすい漁具の検討事業

漁網等漁具の多くはプラスチック製であるが、漁業は、海上や漁港周辺等を主な事業活動の場としていことから、荒天時・災害時等に偶発的又は不可避的に漁具が海洋に流出することにより、海洋プラスチックごみの発生源の一つとなっている。使用済み漁具の迅速かつ適正な回収・処理を確保することは、かかる漁具流出を防止・抑制する上で重要であり、そのリサイクルを推進することが有効な対策の一つと考えられるが、現在、漁業の現場で用いられている漁網等は、構造や素材が複雑で、使用済みとなったもののリサイクルを推進する上での障害となっている。

本事業では、素材別に分解・分別しやすい設計の漁網等、リサイクルの推進を念頭に置いた漁具の開発に向け、機構は令和2年度にニチモウ株式会社と共同企業体を設立して水産庁から受託し、漁具に使用されている素材の調査やリサイクルしやすい素材に替えた漁具の検討を行った。

(4) 漁業系廃棄物再利用支援事業

使用済み発泡スチロールを漁業者自らが圧縮減容機、ペレット造粒機を使用して、燃料として利用する仕組み(水産庁の補助事業で当機構が開発したシステム)や処理方法について、養殖業を営営する大手水産会社や宇和島市からの問合せにオンラインで対応した

(5) 海と渚環境美化推進基金への募金の呼びかけ

海と渚の清掃活動普及啓発事業及び環境・生態系維持・保全活動等調査事業を行うための原資として「海の羽根基金」を呼びかけた。

2. 環境・生態系維持・保全活動等支援事業

藻場、干潟、サンゴ礁など青く生物豊かな沿岸域の環境の保全活動の促進を目的に、次の世代に環境保全を担う人材の育成と沿岸域の環境保全を目指す団体等が実施するプロジェクトに助成しています。令和2年度に助成した団体の活動を報告します。

詳しくはホームページ(<http://www.umitonagisa.or.jp/html/n-kikin.html>)に掲載しています。

歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る事業 実施団体：海・川・山 環境保全研究会(SRME)

1.事業目的

近年関心が高まっている漂着ゴミの現状や海底・海岸清掃を通して藻場・魚・人間を守る。

少子化により過疎化して行く日御碕地区の海の素晴らしさを若者に伝えたい。

2.事業内容

1) 地域住民・協力団体の方々と海底・海岸清掃を行い、その成果をもとに、現在の日御碕の海を画像及び映像で紹介して、今後の環境美化、水産資源保護及び海岸環境の保全整備に関する活動を行い「海は自分達で守る」ための啓蒙活動を行う。



「海底清掃の様子」

2) 大社町日御碕神社沖には、約20年前地元ダイバーにより発見され「海底遺跡」と呼ばれるスポットがあり歴史ある日御碕神社と共に幅広く紹介していく。これにより少子化や高齢化により過疎化して行く日御碕地区の魅力を多くの人々に再発見してもらうきっかけを提供し、海を通して若者たちに夢ある海づくり「海は自分達で守る」を啓発していく。



日御碕神社



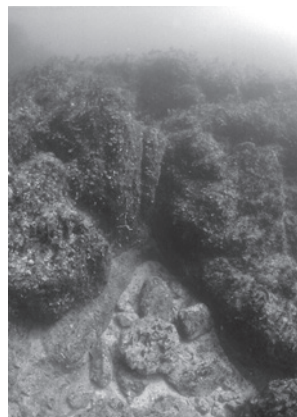
現在でも聖域になっている「経島」



「タイワ」水深20mにある「参道」※「タイワ」P4参照



水深25mにある「階段」



水深25mにある「亀石と滝の跡」



水深12mにある神殿の様な「洞窟」

3) 地元との交流会の開催判断が新型コロナの国内感染者が増える中、緊急事態宣言が発令され開催を自粛すべきか悩みましたが、人数制限を行い出来る限りのコロナウイルス対策、マスク着用・アルコール消毒・検温・ソーシャルディスタンスを行い開催する事にいたしました。

日御碕地区住民の皆様への「案内文」を215軒に配布した。

日御碕地区住民の皆様へ

「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」と「日御碕海底遺跡」についての交流会



内田律雄
 1946年〜
 元島根県立歴史民俗資料館学芸員、
 島根大学文学部歴史学専攻
 専攻主任・学芸員
 『考古学』5巻、
 『島根県史』10巻、
 『島根県史』11巻、
 『島根県史』12巻、
 『島根県史』13巻、
 『島根県史』14巻、
 『島根県史』15巻、
 『島根県史』16巻、
 『島根県史』17巻、
 『島根県史』18巻、
 『島根県史』19巻、
 『島根県史』20巻、
 『島根県史』21巻、
 『島根県史』22巻、
 『島根県史』23巻、
 『島根県史』24巻、
 『島根県史』25巻、
 『島根県史』26巻、
 『島根県史』27巻、
 『島根県史』28巻、
 『島根県史』29巻、
 『島根県史』30巻、
 『島根県史』31巻、
 『島根県史』32巻、
 『島根県史』33巻、
 『島根県史』34巻、
 『島根県史』35巻、
 『島根県史』36巻、
 『島根県史』37巻、
 『島根県史』38巻、
 『島根県史』39巻、
 『島根県史』40巻、
 『島根県史』41巻、
 『島根県史』42巻、
 『島根県史』43巻、
 『島根県史』44巻、
 『島根県史』45巻、
 『島根県史』46巻、
 『島根県史』47巻、
 『島根県史』48巻、
 『島根県史』49巻、
 『島根県史』50巻、
 『島根県史』51巻、
 『島根県史』52巻、
 『島根県史』53巻、
 『島根県史』54巻、
 『島根県史』55巻、
 『島根県史』56巻、
 『島根県史』57巻、
 『島根県史』58巻、
 『島根県史』59巻、
 『島根県史』60巻、
 『島根県史』61巻、
 『島根県史』62巻、
 『島根県史』63巻、
 『島根県史』64巻、
 『島根県史』65巻、
 『島根県史』66巻、
 『島根県史』67巻、
 『島根県史』68巻、
 『島根県史』69巻、
 『島根県史』70巻、
 『島根県史』71巻、
 『島根県史』72巻、
 『島根県史』73巻、
 『島根県史』74巻、
 『島根県史』75巻、
 『島根県史』76巻、
 『島根県史』77巻、
 『島根県史』78巻、
 『島根県史』79巻、
 『島根県史』80巻、
 『島根県史』81巻、
 『島根県史』82巻、
 『島根県史』83巻、
 『島根県史』84巻、
 『島根県史』85巻、
 『島根県史』86巻、
 『島根県史』87巻、
 『島根県史』88巻、
 『島根県史』89巻、
 『島根県史』90巻、
 『島根県史』91巻、
 『島根県史』92巻、
 『島根県史』93巻、
 『島根県史』94巻、
 『島根県史』95巻、
 『島根県史』96巻、
 『島根県史』97巻、
 『島根県史』98巻、
 『島根県史』99巻、
 『島根県史』100巻

私たちAQUA工房は、「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」をスローガンに日御碕地区の海浜・海底の環境保全活動を行ってきました。その中で日御碕沖に沈む海底の様子を様々な角度から地域の活性化になる情報も発信してきました。それがメディアにも取り上げられ日御碕の海底遺跡の存在が少し知れたかと思えます。

2018年10月13日に古代出雲歴史博物館で行われた「神々の国と神事と祭礼」の講演の中で、海洋考古学会代表 内田律雄先生（元島根県埋蔵文化センター学術博士）が、経島沖に沈んでいる「経島〜タイワ」にかけての地形を正式に海底遺跡と発表され、昨年暮れに書籍も発刊された事もあり日御碕の「地域の新たな財産」と「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」と言う事を認識して頂きたく、この交流会を開催させていただきます。

今回の交流会で「日御碕の海底遺跡」を実感して頂き、生まれ育った日御碕地域の自然・歴史を住民の皆様共に守っていきたく思います。

ご連絡お待ちしております。

このコロナ禍での講演になりますので感染予防をしっかり行い、マスク着用、密にならないように人数にも制限させていただきますので、ご参加の際はお申し込みをお願いいたします。

1/24(日) 13:00~15:00
 会場：日御碕コミュニティセンター
 ☆ 問い合わせ、お申し込み：090-1445-8237 D.S.AQUA 工房 岡本

4) 交流会前半は海・川・山 環境保全研究会会長岡本哲夫氏から、海を守っていくには川も山も守らなければならないことや「森が豊かになればその栄養が川を伝って海が豊かになる、海を守るためには小さくても何か出来ることがある」と話され、後半には海洋考古学会代表内田律雄先生(元島根県埋蔵文化センター学術博士)が、2018年10月13日古代出雲歴史博物館で行われた「神々の国と神事と祭礼」の講演の中で、経島沖に沈んでいる「タイワ」の地形を正式に海底遺跡と発表され、昨年暮れに書籍も発刊された事もあり日御碕の「地域の新たな財産」と「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」と言う事を認識して頂きました。

※「タイワ」とは

日御碕神社は「日沈宮」夕日を拜んでる神社、伊勢神宮は「日昇宮」朝日を拜んでる神社で、2社は対の神社になります。現在も日御碕神社の真西にある、神主しか入れない聖域の島「経島」で夕日の神事が行われています。神社のよると古代は「経島」



「交流会の様子」



「内田先生の講演」の様子

の沖にある「タイワ」と言う島(今は水深4mに沈んでいる瀬)で行われていたと言われている、海の中の「瀬」になります。

5) 「歴史ある日御碕神社に由来する海は自分達で守る」と「日御碕海底遺跡」の交流会が無事開催でき、参加者の方々が改めて日御碕の歴史を出雲風土記の中から新しい真実を学べた事を大変喜んでおられました。日御碕神社に由来する海を自分達で守りながら、いままで口伝えなどの事柄を古代の書物、海中の地形と合わせて「海は自分達で守る」と言う実感が持てた交流会になりました。

- 海底清掃人員 15名
- 交流会参加者 28名

第15回・第16回 海藻シンポジウム報告書 江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト

第15回海藻シンポジウム

2020年12月12日 土曜日

コロナ禍での開催につき、市役所経由参加者と時間帯を分けて、密にならない様に開催。

市役所分：大人30人 小人26人 20家族

EFP参加者数：大人36人 小人34人 24家族



市役所分の参加者は、9時30分 10時30分と2回に分けて集合して頂き、種付け体験とクルージングのみ体験して解散して頂きました。

EFP参加者は11時から12時30分の開催で、3チームに分かれて頂き、①ワカメの種付け体験 ②ミニクルージング ③およぎだす不思議なお魚 ④スマホ顕微鏡で色々見てみよう ⑤動画で漁師のお仕事を見てみようの5つの体験をして頂きました。当日少したけナマコやヒトデが用意できたので、ミニミニタッチプールも加えました。

①ワカメの体験

例年よりゆったり人数で、じっくり楽しんで頂けたと思います。相変わらず、子供は真剣に種付けをしています。



②ミニクルージング

本日の海上コンディションはとても良く、青空のクルージングとなりました。ミニクルージングは毎回人気です。



③およぎだす不思議なお魚

ホワイトボードマーカーでアルミホイルに絵をかいて、水に浮かべると言う、単純な遊びですが、真剣に体験していました。ご家庭でも楽しめる手軽な遊びですが、コツが必要で夢中になっている子供もいました。



④スマホ顕微鏡

ヒトデの口を拡大してみたり、シラスの顔を見たりと楽しそうに体験していました。



⑤漁協の協力で作成した、漁師のお仕事動画を見て頂きました。

ドローン撮影の定置網や実際にブリが定置に入った動画は興味深く見ていました。



⑥ミニミニタッチプール

急遽、漁協の方が用意してくれた、ヒトデやナマコ、袖口がびしょびしょになるのに、触っていました。タッチプールはミニミニでも、お子様は大好きです。



コロナ禍での開催、市役所の動向に振り回されましたが、縮小でも開催できた事は良かったと思えました。一斉に集めての講義が難しかったので、藻場のテキストは作成して、配布にしました。コロナ禍で中止なのでは、との問い合わせも頂いていましたが、日に日に、コロナ感染者数が増えている状況だったので、実際に当日参加してくれるのだろうかと不安でした。しかし結果的には、この状況下での開催に感謝の声がほとんどでした。

日々の自粛に疲れているところ、港で大きく深呼吸してくださいと呼びかけたのも良かった様です。

第16回海藻シンポジウム

2021年2月13日 土曜日

第16回海藻シンポジウムは『緊急事態宣言』発令の為中止となりました。

しかし、ワカメは育っています。種付けした子も結果を見てみたいだろう…

漁協は、市役所の建物なので、市役所の許可が無いと開催できないし…

市役所の方針は、種付け参加者に、袋に詰めたワカメを取りに来て頂くだけとなりました。

それでは、体験学習にならないし、体験すらないのは、今までEFPが開催してきたイベントの根本が違ってくると、色々と悩み、考えて、『生ワカメ即売会』と名称を変更して開催と致しました。

販売であるならば、コロナ禍でも行われている事なので、問題は無いと判断しました。

市役所分の配布場所はEFPと離れた場所でお渡し頂き、一応『即売会』としたので、受付横に別のブースを設けて販売のみ行い、ホームページから予約して頂いた方は、刈取り体験をして頂きました。

開催時間も幅を付けて10時～12時とし、密を避けました。

参加者数：大人45人 小人28人 総人数73人
32家族

やはり県内の方が多かったです。

種付け参加者も県内の方はほとんど参加して頂きました。

中途半端な開催である事や大きく集客ができなかったのも、参加費は無料としました。

集まってくれた、スタッフも最少人数とし、EFPの会場スペースには市役所予約の方々は入らないなどの区分を線引きをしたり、コロナ禍での開催は、今まで以上に責任問題の区別など、苦勞もありました。しかし、開催を途絶えさせることは、今までの努力も無くなる様な気持ちもあったので、縮小でも開催できた事は、良かったと考えています。参加者の声も、『開催ありがとうございます』を沢山頂きました。



①刈取り体験

種付けした参加者もワカメを初めて刈取る方も、大きさにびっくりしながら、刈り取ったワカメを詰めていました。



②ワカメの塩蔵体験

沢山のワカメをすぐに食べきれない方は、塩蔵してください。との案内と共に、塩蔵体験をして頂きました。



③およぎだす不思議なおさかな

このコーナーは、EFPイベントの定番になりそうです。

費用が掛からないのに、お子様は必ず試して真剣に体験しています。



④ワカメの種付け後の動画

12月に種付けした後のワカメの様子を動画にして、皆様に説明しました。ダイバーによる、ワカメ棚の撮影風景は、普段見る事無い映像で、皆様感動して頂けました。



⑤スマホ顕微鏡コーナー

今回は、『里海イニシアティブ』の方々はお越しにならなかったため、EFP購入の顕微鏡でご自分のスマホで見て頂きました。

ワカメに付いたワレカラを見たりと、楽しんでいました。24インチのディスプレイに転送してして、見て頂くセッティングもチャレンジしました。



コロナに振り回された1年でした。今後もこの状況は35年は続くのでしょうか。

コロナは無くならないので、以前の開催方法に戻れることを願うのではなく、現在の状況にあったイベント開催をしていく事を考えていかなければならないと強く思います。

幸いにも、屋外イベントなので、換気の問題が無い事で、参加するハードルは低く、緊急事態宣言中でも、県内在住参加者は想定を上回る参加者数でした。

大型テレビによる動画配信は、とても好評です。

YouTubeの時代です。今後はもっと動画作成してイベントに組み込んでいきます。

今回テーブルを揃えられた事で、今後レンタル料金もかからず、開催して頂けます。

来期からは、藤沢市とは分離開催を考えています。コロナ禍での行政・民間では、やはり大きな溝ができてしまいます。いままで同時開催できた事の功績はとても大きく、助けられる事も多数でした。

しかし、コロナ禍では難しい面の方が多くなっている様に思います。

お陰様で、テレビやテーブルを揃えられました。

今後は、EFP単独もしくは、民間企業との連携で開催していく方向を目指します。

もちろん、海藻シンポジウムだけでなく、日々の活動にも使用させて頂きます。

来期は一般企業からのオファーをすでに頂いています。

学習塾系は午前中に簡単な学習や工作、午後釣りなどのコースが人気で、すでに実績も上がっています。

大手企業から、SDGsの講義プラス海岸清掃などのツアーを定期的にとのお話も進行中です。

今後も、環境問題を、楽しく体験、楽しく学習で身近に感じて頂けるイベントを開催していきます。

私共の活動が大きく変わる下支えをして頂きました。

3年間、大変お世話になり、ありがとうございました。

江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト

副代表 山下由香里



3. 令和2年度 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告

未来に残したい、美しい浜辺・青い海

*全国から集まった海浜清掃活動報告をご紹介します。(ホームページに掲載したものの一部です)

*ホームページ <http://www.umitonagisa.or.jp/html/genchihoukoku.html>

*Twitter <https://twitter.com/umitonagisa>

■青森県

階上町産業振興課

令和2年10月20日(火)

活動場所 階上海岸全域 5.5km

参加者 100名

ごみの量 自然物 150袋
人工物 150袋



■宮城県

①七ヶ浜町観光協会

令和2年7月27日

活動場所 菖蒲田浜海岸

参加者 30名

ごみの量 計 3.5㎡

②七ヶ浜町建築士事務所協会

令和2年10月17日

活動場所 菖蒲田浜海岸

参加者 15名

ごみの量 計1.4㎡

③七ヶ浜町 ENEOS

令和2年10月21日

活動場所 湊浜海岸

参加者 20名

ごみの量 計0.3㎡

④七ヶ浜町地域住民

令和2年10月11日、10月17日、10月26日

活動場所 前塚浜海岸

参加者 30名

ごみの量 2.8㎡



■千葉県

マリンプルーレンジャー

毎月最終日曜日

活動場所 横芝光町 屋形海岸

参加者 約20~40名

ごみの量 毎月約300㎡

内訳(紙・布類50㎡

プラスチック類50㎡

缶等の金属類100㎡

ガラス類50㎡

その他50㎡)

■東京都

公益財団法人 日本釣振興会

令和2年9月~11月

活動場所 ①全国31ヶ所

参加者 1096人

ごみの量 自然物ごみ・人工物ごみ
1833袋(トラック台数など
での報告含まず)

北海道 苫小牧市苫小牧東港区

内防波堤周辺90名

岩手 北上川南大橋上下流1km 14名

宮城 名取市閑上港周辺 35名

栃木 鬼怒川大渡付近 3名

茨城 北茨城市大津港 120名

東京 国立市中央自動車道下青柳周辺
6名

東京 横利根川 50名

埼玉 さいたま市びん沼川左岸(三本
木橋~びん沼橋) 57名

埼玉 明秋・釜虎 一帯 30名

山梨 道志川全域 21名

山梨 釜無川信玄橋上流 5名

静岡 清水港日の出埠頭 67名

静岡 都田川 40名

静岡 いなさ湖 45名

滋賀 守山市木浜湖岸周辺 18名

大阪 泉佐野食品コンビナート~泉佐
野漁港 113名

大阪 大阪南港 咲洲南埠頭
かもめ大橋周辺 58名

大阪 大阪舞洲北港夢舞大橋付近
20名

大阪 大阪北港舞洲緑地 常吉大橋
周辺6名

兵庫 垂水漁港 50名

兵庫 豊岡市気比の浜周辺 29名

和歌山 扇ヶ浜海水浴場周辺 11名

新潟 胎内市村松浜 5名

富山 小境(ccz)大境漁港 57名

富山 神通川河口 東堤防付近 29名

福井 敦賀港周辺 21名

広島 広島食肉センター(株)前道路
及び太田川放水路河口付近
7名

広島 東尾道県漁連付近一帯 27名

香川 高松市朝日町G地区エリア 10
名

福岡 久留米市宮の陣下河川敷周辺
10名



一般社団法人 新島観光協会

令和2年7月22日9:00~12:00

活動場所 黒根海岸、本村前浜海
岸、和田浜

コメント 今年にはコロナ禍により、海
水浴シーズン直前の1回のみ、人数も
絞っての実施となりました。

■新潟県

上越プラネット

令和10月3日 7:00~8:00

活動場所 虫生岩戸~居多海岸

参加者 150名

ごみの量 人工物 150kg

コメント 地元の海をきれいになって
うれしい。今後も積極的に参加したい。



新潟県漁業協同組合連合会

令和3年3月16日

活動場所 太夫浜海岸

参加者 80名(小学校4年生55名
組合員10名 婦人会5名
他10名)

ごみの量 自然物ゴミ 180袋
人工物ゴミ 170袋
その他 流木

コメント 今年度はコロナ情勢で全校生徒ではなく4年生、先生と保護者での実施となりました。

■富山県

富山火力発電所

令和2年10月27日(火)12:20~13:00

活動場所 富山火力発電所北側松林周辺

参加者 69名

ごみの量 自然物ごみ 15袋
人工物ごみ 5袋
その他 1つ

コメント 自然物ゴミが多かった。人工物ごみの大半は、プラスチック、発砲スチロール等で占められていた。



■石川県

マリンプルーレンジャー

令和2年10月29日

活動場所 袖ヶ浜海水浴場

参加者 袖美会6人 会議所20名
他4名

ごみの量 自然系ゴミ 流木・草等
(200kg) 海藻等(3トン
「小型ダンプ2台分」)

コメント 自然物ゴミが多かった。人工物ごみの大半は、プラスチック、発砲スチロール等で占められていた。

令和3年1月、2月、3月

活動場所 袖ヶ浜海水浴場

参加者 のべ20~25名

ごみの量 自然系ゴミ 流木 4t
海藻等 7t
その他漁網・ロープ等 3t



■福井県

越前町漁業協同組合

令和2年6月1日

活動場所 宿、新保、小樟、大樟、道
口、厨 わら市北潟・波
松・浜坂海岸

参加者 37名

ごみの量 自然物ゴミ 4袋
人工物ゴミ 5袋、
その他(漁業用浮き)66個

コメント コロナの影響で例年よりもゴミは少なかったが、釣り客のゴミが多かった。



若狭三方漁業協同組合

令和2年6月7日

活動場所 常神半島海岸線

参加者 155名

ごみの量 自然物ゴミ 1500袋
人工物ゴミ 500袋
その他 流木、藻類、
ロープ等 2.2t

コメント 毎年参加しているが、今年
は例年に比べて、流木などの非人工物
のゴミが多い様感じた。



越廼漁業協同組合

令和2年6月7日、10月18日

活動場所 菜崎漁港・菜崎海水浴場

参加者 136名

ごみの量 自然物ゴミ 10袋
人工物ゴミ 20袋

コメント 夏空き缶、ペットボトルがや
はり多く落ちている。漁網・ロープ類の
切れ端、軍手、手袋、長靴等は漁業者
自身が注意すべきである。毎年ながら、
思ったよりもゴミが多いのでビックリした。



三国港漁業協同組合

令和2年9月20日

活動場所 坂井市三国町沿岸

参加者 19名

ごみの量 自然物ゴミ 150袋
人工物ゴミ 150袋



■静岡県

Nature Clean

①令和2年8月29日8:50~10:30

活動場所 江南中学校西側

ごみの量 自然物ゴミ 56袋
人工物ゴミ 8袋

参加者 18人



②令和2年10月24日9:00~10:30

活動場所 馬込川・芳川河口西側

参加人数 16人

ごみの量 自然物ゴミ 46袋
人工物ゴミ 6袋

■愛知県

豊浜漁業協同組合

①令和2年6月9日 AM7:00~10:00

実施場所 蒲内海漁港内
山海漁港内

参加者 38名

ごみの量 自然物ごみ 1,700袋
人工物ごみ 235袋



②令和2年7月11日 AM7:00~10:00
実施場所 豊浜漁港内
参加者 55名
ごみの量 自然物ごみ 2,840袋
 人工物ごみ 380袋

■鳥取県

鳥取市

- ①令和2年4月12日(日)ほか
活動場所 船磯海岸
参加者 20名
- ②令和2年6月28日(日)ほか
活動場所 酒津漁港
参加者 110名
- ③令和2年7月15日(日)ほか
活動場所 岩戸海岸
参加者 50名
- ④令和2年8月2日(日)ほか
活動場所 青谷海岸
参加者 20名
- ⑤令和2年8月13日(日)ほか
活動場所 船磯海岸・漁港内
参加者 45名



■岡山県

岡山県漁業協同組合連合会

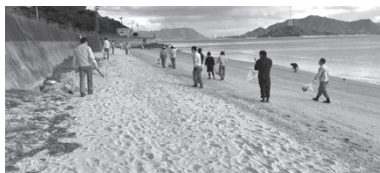
令和元年6月1日
活動場所 岡山県地先海面・海岸80km
参加者 1016人
ごみの量 自然物ごみ 8600袋
 人工物ごみ 4050袋
 その他 袋に入らないタ
 イヤや大きな流木等がコ
 ンテナ3台程度

コメント 今年度は地元自治会や中
 学生に加えて地元企業の方々も参加し
 てくれた。この輪をさらに広げていき
 たいと思う。海岸清掃は定期的に行わ
 ないとすぐに汚れてしまうため感染に
 気をつけながらも実施して、結果とし
 て良かった。

■広島県

竹原火力発電所

令和2年10月30日
活動場所 長浜海岸地域
参加者 79人
ごみの量 自然物ごみ 20袋
 人工物ごみ 20袋



■徳島県

マリンブルーレンジャー

令和2年7月5日
活動場所 由岐地区田井ノ浜海水
 浴場
参加者 12名
ごみの量 70kg(内訳缶等の金属類)



■高知県

高知県四万十町

令和2年7月16日
活動場所 宇佐港
参加者 30人
ごみの量 自然物ごみ 50袋
 人工物ごみ 50袋

コメント コロナウイルスの影響で、地
 域全体での一斉清掃は控えましたが、い
 つも使用している浜なので浜清掃をす
 ることにより浜の管理に繋がり、組合員
 の美化意識向上に繋がっていると思
 える。



■福岡県

福岡県漁協青壮年協議会

実施日時 令和2年4月~8月
活動場所 7漁協 海岸・漁港等24
 箇所

参加者 1059名
ごみの量 自然物ごみ 1268袋
 人工物ごみ 598袋
コメント コロナの影響か、例年より釣
 り客によるゴミが多い地区、海水浴で出
 るゴミが少ない地区があった。また本年
 は豪雨による流木、台風によるゴミが多
 い



福岡有明海漁業協同組合連 合会

令和2年8月24日
実施場所 福岡県有明海沿岸域
参加者 1482名
ごみの量 自然物ごみ 64.40トン
 人工物ごみ 10.93トン
 その他 6トン
 総計 81.33トン930kg

コメント 今年はゴミの量も多く、ま
 た大型のゴミも多いため回収が難し
 かった。ゴミの量だけなら九州北部豪
 雨のときくらいあった。大きなゴミ袋
 じゃないと全部回収できない等の意見
 があった。



■佐賀県

佐賀県有明海漁業協同組合

令和2年8月22日、24日、29日
活動場所 有明海沿岸域海浜
参加者 1710名
ごみの量 自然物ごみ 1600袋
 人工物ごみ 837袋

コメント 有明海における廃棄物に
 による漁業被害及び漁場の効用低下を
 抑制するため、漁業者自らが廃棄物
 の除去・回収処理をおこない、漁場の
 環境保全を図った。



■長崎県

佐世保市相浦漁業協同組合

令和2年4月～3年3月まで19日間

活動場所 佐世保市(高島、浅子、日野、大崎、黒島、船越)島周辺海岸

参加者 194名



■熊本県

天草市

令和2年6月7日から8月23日

活動場所 牛深地域、御所浦町、倉岳町、五和町、佐伊津町の各海岸周辺海岸

参加者 2540名

ごみの量 自然物ゴミ 24.80㎡

人工物ゴミ 11.60㎡

その他 187.50㎡

コメント 清掃箇所をブロック分けし、役割分担を明確に行い実施することができた。一昨年に比べ分別をしっかり行うことができた。



熊本県漁業協同組合連合会

令和2年8月25日・26日・30日

活動場所 県内12箇所

参加者 1940名

ごみの量 自然物ゴミ トラック41台

不燃物ゴミ トラック22台

重機14台

■大分県

大分県漁業協同組合

別府支店

令和2年6月27日・令和2年11月4日

活動場所 亀川漁港

参加者 65名

ごみの量 自然物ゴミ300袋

津久見市荒代地区

令和2年10月25日、令和3年1月17日

活動場所 津久見市大元海岸

参加者 12名

ごみの量 自然物ゴミ 50袋

不燃物ゴミ 50袋



特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

令和2年12月6日9:00～10:00

活動場所 中津市大新田海岸

参加者 148名

ごみの量 燃えるゴミ 160kg

燃えないゴミ 60kg



■宮崎県

外浦漁業協同組合

令和2年12月29日am7:00～

活動場所 みなとの森公園周辺

夫婦浦港 外浦港

参加者 121名

ごみの量 自然物ゴミ 2t車1台、

軽トラック2台

人工物ゴミ 軽トラック1台、

その他 軽トラック1台

コメント 岸壁清掃

宮崎漁協 女性部

令和2年7月21日午前7時30分～

活動場所 宮崎港漁船係留岸壁周辺

参加者 70名

ごみの量 自然物ゴミ 30袋

人工物ゴミ 65袋

コメント 漁船係留岸壁周辺の清掃



門川漁協

令和2年11月26日午前10時～

活動場所 宮崎港漁船係留岸壁周辺

参加者 35名

ごみの量 自然物ゴミ 35袋

人工物ゴミ 12袋

その他 大木(丸太)

コメント 漁協組合員・青壮年部・婦人部併せて門川漁港のゴミ収集を実施しました。



■鹿児島県

東串良町役場

令和2年6月13、6月21日、9月12日

活動場所 東串良町柏原海岸周辺

参加者 119名

ごみの量 自然物ゴミ 100袋

人工物ゴミ 100袋



■沖縄県

沖縄電力株式会社

令和2年6月16日・17日・19日・24日

26日・30日・10月31日・11月28日

活動場所 東沖縄県内海岸(浦添

西海岸、波之上ビーチ、ト

ロピカルビーチ等の海岸

(離島含む)

参加者 513名

ごみの量 自然物ごみ、人工物ごみ、

その他 計379袋

※自然物、人工物等の分類別に分けることができないため、ごみ袋の総数を記載しています。

コメント 沖縄電力およびグループ会社役員により沖縄県内各地の海浜等清掃活動を実施しました。今後も環境ボランティア活動に積極的に参加していく予定です船係留岸壁周辺の清掃



令和2年度 海の羽根募金・なぎさの環境基金

海と渚をきれいにを目指す「海と渚の環境美化活動」に皆様方からの温かいご支援をいただきました。心よりお礼申し上げます。
(個人の方からもたくさんのご支援をいただきましたが、団体名のみ記載させていただきます。)

- 青森県漁業環境保全振興協会
- 秋田県漁協女性部連絡協議会
- 東京都漁業協同組合連合会
- 落部漁業協同組合
- 長万部漁業協同組合
- 雄武漁業協同組合
- 枝幸漁業協同組合
- 沙留漁業協同組合
- 後潟漁業協同組合
- 白糖漁業協同組合
- 重茂漁業協同組合
- 秋田県漁協女性部連絡協議会
- 中之作漁業協同組合
- 富津漁業協同組合
- 勝浦漁業協同組合
- 御蔵島漁業協同組合
- 葉山町漁業協同組合
- 小坪漁業協同組合
- 佐渡漁業協同組合
- 魚津漁業協同組合
- 越前町漁業協同組合
- 大島漁業協同組合
- 若狭高浜漁業協同組合音海支所
- 浜分漁業協同組合
- 京都府漁業協同組合湊支所
- 神戸市漁業協同組合駒ヶ林支所
- 津名漁業協同組合
- 室津漁業協同組合
- 姫路市漁業協同組合白浜支所
- 南あわじ漁業協同組合
- 西脇漁業協同組合
- 海南市漁業協同組合
- 宇久井漁業協同組合
- 児島漁業協同組合
- 下蒲刈町漁業協同組合
- 岡山市漁業協同組合
- 音戸漁業協同組合
- 内能美漁業協同組合
- 岩門市漁業協同組合
- 山口県漁業協同組合吉見支店
- 和田島漁業協同組合
- 椿泊漁業協同組合
- 香川県漁業共済組合
- 牟礼漁業協同組合
- 鴨庄漁業協同組合
- 愛媛県漁業協同組合壬生川支所
- 愛媛県漁業協同組合魚島支所
- 橋浦漁業協同組合
- 高知県漁業協同組合室戸統括支所
- 福岡県漁協青壮年協議会
- 福岡市漁業協同組合能古支所
- 佐賀県有明海漁業協同組合
- 佐賀玄海漁業協同組合
- 東洋漁業株式会社
- 宇久小値賀漁業協同組合
- 生月漁業協同組合
- 小島漁業協同組合
- 河内漁業協同組合
- 大浜漁業協同組合
- 滑石漁業協同組合
- 鹿児島県漁業協同組合喜入町支所
- 指宿漁業協同組合岩本支所
- 瀬戸内漁業協同組合
- 糸満漁業協同組合
- 共水連 大分県事務所
- 三重県漁業共済組合
- 三重県信用漁業協同組合連合会
- 宮崎県信用漁業協同組合連合会
- 長崎県信用漁業協同組合連合会
- 全漁連釧路油槽所
- 全漁連東北事業所・仙台駐在
- 全国漁業協同組合連合会八戸油槽所
- 全国漁業協同組合連合会釧路油槽所
- (一社) 中央漁業操業安全協会
- (一社) 漁業経営安定化推進協会
- (一社) 全国漁業無線協会
- (一社) 海洋システム協会
- (一社) 全国まさ網漁業協会
- (一社) 海外まさ網漁業協会
- (一社) 漁港漁場漁村総合研究所
- (一社) 水産土木建築技術センター
- (一社) いか釣り漁業協会
- (一社) 全国漁村協同組合学校
- (一社) 水産土木建設技術センター
- (一社) 責任あるまぐろ漁業推進機構
- (一社) 全日本漁港建設協会
- (一社) 日本鯨類研究所
- (一社) 漁業情報サービスセンター
- (公財) 海洋生物環境研究所実証試験場
- (公財) 海洋生物環境研究所
- (公財) 海外漁業協力財団
- 全国さんま棒受網漁業協同組合
- 全国遠洋沖合漁業信用基金協会
- 全国漁業共済組合連合会
- 全国市町村水産振興対策協議会
- 日本漁船保険組合
- (国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所南勢拠点
- (国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所
- (国研) 水産研究・教育機構 釧路庁舎
- (国研) 水産研究教育機構
- (特非) 水産業・漁村活性化推進機構
- (株) チェノフ情報システムズ
- ソフトバンク (株)
- ダイードリンク (株)
- JO1 ファン同
- 日本ソリッド (株)
- (株) ラムダ
- (株) エルコム
- リ・オアシス (株)
- 佐渡市立加茂小学校5年生
- サントリービバレッジサービス (株)
- 東洋漁業 (株)
- たいひ望 (有)
- 酒田曳船 (株)
- 土居石油 (株)
- (有) 仁徳海運
- 東海汽船 (株)
- (株) 鈴木薬局 大宮アルシエ店
- (株) リミックスポイント
- (株) イタ飯屋
- (株) 泰州
- アインズ (株)
- (株) 木万屋商会
- (株) グラディア
- 田中運輸 (株)
- 日本空調システム (株)
- エムデザイン
- (有) 内田プラスチック
- 海洋土木 (株)
- 谷口商会 (株)
- 北海道水産林務部水産振興課
- (地独) 北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場
- (地独) 北海道立総合研究機構函館水産試験場
- (地独) 北海道立総合研究機構水産研究本部釧路水産試験場
- (地独) 青森県産業技術センター水産総合研究所
- 岩手県水産技術センター
- 茨城県農林水産部漁政課
- 茨城県水産試験場
- 栃木県農政部農村振興課
- 栃木県水産試験場
- 千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所
- 東京都産業労働局農林水産部水産課
- 神奈川県環境農政局農政部水産課
- 新潟県農林水産部水産課
- 新潟県内水面水産試験場長
- 富山県水産漁港課内水交會
- 石川県農林水産部水産課
- 石川県水産総合センター
- 福井県農林水産部水産課
- 静岡県水産振興課
- 静岡県水産・海洋技術研究所
- 愛知県農業水産局水産課
- 三重県農林水産部水産振興課
- 三重県水産研究所鈴鹿水産研究室
- 鳥根県農林水産部水産課
- 但馬水産技術センター
- 山口県水産研究センター
- 山口県水産研究センター-海外研究部
- 徳島県水産復興課・漁業調整課部会
- 香川県農政水産部水産課
- 福岡県農林水産部水産局水産振興課
- 佐賀県有明水産振興センター
- 佐賀県水産課
- 熊本県水産研究センター
- 大分県農林水産部漁業管理課
- 宮崎県農政水産部水産政策課・漁村振興課
- 宮崎県水産試験場
- 沖縄県農林水産部水産課
- 水産庁農政部水産経営課
- 水産庁国際課 一水会
- 水産庁漁政部漁政課
- 水産庁企画課
- 水産庁加工流通課
- 水産庁漁政部保険管理官
- 水産庁漁業取締課
- 水産庁漁場資源課
- 水産庁整備課
- 水産庁防災漁村課
- 水産庁新潟漁業調整事務所
- 水産庁境港漁業調整事務所
- 水産庁九州漁業調整事務所

あ と が き

2019年末に中国武漢市で確認された新型コロナウイルス感染症は、日本においても2020年4月に1回目の緊急事態宣言が発令された第1波以来、第2、3波、そして現在3回目の緊急事態宣言が継続されている第4波と、未だ流行の終焉が見えませんが、

当機構は、令和2年度に3件の環境・生態系保全活動への助成、全国1,700ヶ所の海岸等清掃作業にゴミ袋を配布

するなど、海と渚の環境美化活動を推進しました。これらの活動現場は、感染リスクの極めて低い風通しの良い海岸等であり、感染症のクラスターが発生したとの報告は受けていません。今年度の活動につきましても、十分な感染症対策を講じながら実施して下さいますようお願い申し上げます。

本年5月に就任しました業務部長の藤井一則と申します。今後ともよろしくお願ひいたします。(藤井)

14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう

